

令和5年1月 9日

南の風 For Junior / / /

南部地区ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

明けましておめでとうございます！ 今年もよろしくお祈りします！ 前号の続きです。

カットのメリットは、動きの連続性です。ボールをどんどん回して、どんどんどんどん動きを増やしたいときはスクリーンを使わずカッティングを使った方がいいです。目的はクローズアウトです。

110で紹介したように、パス&ランでカッティングやドライブで崩すことで、クローズアウトを作っていくことが5アウトオフENSEの大きなコンセプトになります。

カッティングした選手にボールが入らない場合は、原則として逆サイドに切れます。トップの1番が右ウイングの3番にパスした後カットしたとします。1番は左コーナーに切れます。左コーナーにいた4番は左ウイングに上がり、左ウイングにいた2番はトップに上がります。このような動き（それぞれがズレてスペースを取る）をリプレイスと言います。味方同士がくっ付いてスペースが狭くならないためです。

このようにカッティングとドライブで、クローズアウトを誘いアドバンテージを作り、リプレイスでスペースを作りながら攻めるのが基本の一つ目です。ここで②や③のスクリーンプレーを説明する前に、5アウトオフENSEのねらいとカット&ドライブの具体例書きます。

《5アウトオフENSEのねらい》

◎ポジションにこだわらず、選手をオールラウンダーに育てる

◎サイズがないチームが、ペイントエリアのスペースを攻めるオフENSE

《具体例》

1 リード&リアクト ※図に描いて動きを確認すると分かりやすいです。

ボール優先でボールに合わせるオフENSE。普通モーションオフENSEは、オフボールのところで計画するが、リード&リアクトはボールを持っている人はとにかく攻める。そのボールの動きに対して4人が合わせるオフENSE。

ボールを持った人はDEFを見てシュートを構え、かけ引きをしてDEFを破って攻め、周りが合わせて動くようにする。

110のアライメントで説明すると、1番が右ドライブでペイントを攻めたとする。右コーナーの5番はバックドアで逆サイドにカットし、右ウイングの3番は空いた右コーナーに動く。逆サイドのウイングの2番は、1番のドライブで空いたトップへ上がり、4番は左ウイングに上がる。この動きをサークルモーションと呼ぶ。

トップの1番が右ウイングの3番にパスし、3番がミドルへドライブすれば、1番はアウェーして左ウイングにカットし、左ウイングの3番は左コーナーへ動き、左コーナーの4番は、逆サイドへ移動する。右コーナーにいた5番は、3番がいた右ウイングに上がる。この動き方は、逆サークルモーションの動きになる。

このようにして、まずボールマンが仕掛け周りが合わせる攻め方をリード&リアクトと呼ぶ。